（別紙4）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070703105		
法人名	有限会社　健康サポートセンター		
事業所名	グループホーム　ひだまり		
所在地	〒897-0872 福岡県北九州市八幡西区浅川1丁目25－6　TEL 093-695-1315		
自己評価作成日	平成23年　6月　21日	評価結果確定日	平成23年09月09日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　北九州シーダブル協会
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5－27　TEL 093-582-0294
訪問調査日	平成　23年08月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域密着・地域との関わりの中で、今年は地域との関係をより蜜にする為に町内会に入会させて頂きました。運営推進会議には、常に自治会長・民生委員・包括支援センターの方々に来て頂き、入居者の御家族も多数参加されて充実した物になっています。毎月のイベントはもちろん、その他、季節・天候・入居者の体調等を見て、地域の祭りに参加したり、裏庭の菜園観察、草取り、散歩等を行っている。看護師が常駐し、入居者の体調管理と緊急時の対応を24時間体制で行い、医師との連携も密に取っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「ひだまり」は、産業医科大学の周りの住宅街に、デイサービス、有料老人ホーム併設の2ユニットグループホームである。昇降機を設置した階段を上ると、メダカ専用の水連鉢やゆっくり寛げるベンチがあり、利用者のいこいの場になつている。リビングルームからは、利用者と職員の明るい笑い声が聞こえ、ラジオ体操が始まっている。管理者は、職員に、利用者が、いつまでも「ひだまり」で暮らせるように、一人ひとりに合わせた生活リハビリを通して、自立支援に向けた取り組みを実践している。地域の方や家族の協力が大きい運営推進会議では、グループホームの今後の在り方や、ターミナルケア等意見交換し、充実した会議として、ホーム運営に反映されている。また、開設7年目で、地域との交流も信頼関係の上に構築され、地域密着型グループホームとして「ひだまり」の今後を期待したい。

V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果　（1階）

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく安心して暮らして頂ける家をめざします」という理念を掲げ職員全員で毎朝唱和し確認し合って共有実践に取り組んでいる	事業所の理念を共有し意識づけるために職員全員で毎朝唱和し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とより密着した関係を保ちたく町内会に入会し地域の保育園児によるエイサー踊りや小学生の体験学習、中学生、大学生のボランティア等の受入れをして入居者様に喜んで貰っている	町内会に加入し、利用者、職員は、地域行事に参加している。利用者の楽しみの一つである、保育園児によるエイサー踊り、また、小学生の体験学習、中学生、大学生のボランティア等の受入れが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に入会した事で地域の方々との交流も増え私たちに出来ることは地域へ出向きグルプホームの存在、認知症に対する理解を広めたいと取り組んでいる		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1度入居者の家族、自治区長、民生委員、包括支援センター職員グループホーム関係者などの出席。グループの現状報告後、活発に意見交換が行われている	会議は利用者と家族、自治会長、民生委員、包括支援センター職員、グループホーム関係者などで構成され、活発な意見交換が行われている。メンバーからの要望や提言はサービスの向上に反映されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターとの連携により情報の収集、当事業所の現状報告、又相談など行いアドバイスを頂いている	行政や地域包括センターと連携し、事業所の現状報告や情報を収集し、助言を得て、協力関係を築くよう努力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は入居者一人ひとりの癖や傾向を把握し見守りに努め、日中は鍵をかけないケアを実践している。安全確保のために玄関にはセンサー付きのチャイム、階段には門扉を設置し安全を確保している	職員は、身体拘束が利用者に与える身体的、精神的苦痛を理解し「身体拘束をしないケア」を実践している。日中は玄関を施錠せず、安全のためのセンサー付きのチャイムがあるが、自由に出入りできる環境である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は研修を受け入居者の気持ちを理解するように努める。職員相互の連帯によりゆとりを持って入居者と接するように取り組んでいる。より安全に安楽に介護出来るように福祉用具の活用もしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は権利擁護に関する研修を受け制度の理解を深めることに努めている。現在は活用している入居者はなし。入居者が必要となった場合も活動出来るように支援する	管理者、職員は、成年後見制度などの権利擁護に関する研修を受講し、制度の理解を深めている。現在、制度の利用者はいないが、いつでも必要時に対応出来る体制が整っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	計約締結時、契約書、重要事項説明書を家族にすべて説明し確認を取っている。疑問点に関してはその都度説明し納得して頂いている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時、面会時、家族の要望や意見を聴く機会を設けている。又玄関前に意見箱を設置しいつでも意見があれば入れて頂けるようにし改善にも取り組んでいる	運営推進会議には家族の参加が多く見られ、事業所への意見や要望を出してもらい改善に役立てている。また、家族の訪問時には、積極的な声かけをし、悩みや想いを聴き取り、サービスの質の向上に繋げている。	
	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度全体ミーティングを行い職員よりその時々の意見を聴く時間を設け改善、要望、意見は管理者会議にて代表者に報告している	月１回、定例の全体ミーティングを行い、職員からは運営に関する要望や、積極的な改善・提言があり、管理者会議で、代表者に報告し、できるだけ職員の意見が運営に反映できるように努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のスキルアップのため職員一人ひとりが目標に向け今なにをすべきかを各自で考え行動する。向上心を持って働ける職場にするよう努めている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても,その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に当たっては差別は特にない。意欲にある職員が活き活きとは働ける環境を整えるよう努めている。希望休日、休息時間の確保など個人の希望を組み込んだ就業シフトを作るように心掛けている	希望休や休憩時間の確保など、個人の希望を組み込んだ、勤務表が作成されており、労働環境が整っている。職員は、外部研修への参加の機会も確保され、生き生きと働ける体制である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する社外研修参加を促したり社内研修を通し随時人権教育に取り組んでいる	人権に関する内外研修を通し、人権に対する意識の向上を図ることで、毎日の暮らしの中で利用者の人権を尊重し、安心して暮らせるホームを目指し、人権に関する啓発活動を行っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内にて年間計画に基づき研修を行っている。社外研修にも積極的に参加を促しカンファレンス会議時などに介護技術講習、知識、情報の共有に努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとは相互訪問など行い情報交換、意見交換を行いサービスの向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時しっかりアセスメントをとり本人の希望家族の思いを取り入れ安心して生活できるように配慮するよう努める		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望者家族には当グループホーム内見学、運営方針、職員の対応について説明。家族の疑問、要望などは解決の方法を探りながら心地良く生活できるよう努める		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	プラン作成時本人、家族の生活史を知りどのような支援が必要かをじっくり考えながら満足のいく個々のサービスくを利用できるように努める		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は人生の先輩である入居者より学ぶ事も多く会話の中で生活の知恵を教えてもらうことも多い。職員と共に食事作り、おやつ作り、菜園などでは生活の喜びを体感している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族と連絡をとり合い本人の状況、状態を共有しながら入居者が心地よく生活できるような場所でありたいと考えている。訪問時には自室にてお茶を飲みながらくつろぎ、家族又は訪問者との交流を深めて頂く。イベントには声かけを行い参加を促している		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と関わりのある来訪者は歓迎している。又家族との外出、外泊は自由に行い、元の関係が途切れないように努めている。	本人と関わりのある知人や友人が気楽に訪問できる雰囲気作りに努めている。また、家族との自由な外出、外泊など、大切な人との関係が継続できるように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員見守りの中入居者で協力し、張り絵、おり紙、など共同で作品を作る事もある。洗濯物干し、衣類をたたむ、布巾作り、もやしのひげ取りなど一緒に楽しみながら行っている。車いす使用の入居者を職員と一緒に押しながら施設内の廊下を散歩したり交流を図っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後も入院先へ訪問、本人、家族との交流を続けている。必要に応じて電話での相談にも応じている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	１２	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者のペースで柔軟に対応し主体性を持てるよう配慮する。安全面を重視して決まり事は最小限にしている。サインつぶやきを見逃さず一人ひとりの思いをくみ取り意向に添うように心がけている。困難な場合は職員間で検討を繰り返し少しでも改善出来る様に努める	利用者との会話、しぐさ、表情等を見逃さず、本人の想いを敏感に察知し、その人らしさが継続されるケアを心掛けている。意志表出の困難な利用者には、本人と家族に関する情報を職員間で共有しながら検討し、意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室内は入居者の生活歴を大切にし本人なじみの家具、写真などを活用し生活環境の変化を最小限に抑えている。ケアプランを通し時々のプランの見直しを行っている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シート、業務日誌、生活記録などで観察、記録を行い心身の状態の変化を把握し対応する		
28	１３	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画、モニタリングは入居者、家族の要望を受け管理者、看護師、担当職員で話し合い現状に即したプランを立てモニタリングを行いながら状態観察をしている	利用者の意向や家族の要望を反映しながら職員間で話し合い、現状に即した介護計画を、3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせ、家族と連絡を取りながら、その都度見直しを図っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シート、業務日誌、介護サービス実施表などから実践後の評価を行い職員間で協議しプランの見直しを柔軟に行っている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の病院同行、看護師常駐による健康管理地域のイベント参加、春の花見、ドライブ、外食など家族も巻き込みそのときに出来る事をしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭り・イベント等に参加し、地域との交流を行っている。又、こちらから地域のボランティア活動などに参加し、つながりを大切にしたい。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望を大切に、それぞれかかりつけ医の受診支援を行っている。家族が何かの理由で同行できない場合は、看護師が同行するなど、医師との連携を取り、指示を仰ぎながら支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医への受診支援を行っている。家族が同行できない場合には、看護師が同行するなど、医師との連携を取り、利用者の健康管理を図ると共に、充実した医療連携体制の確立を目指している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師による、健康管理また月に一度健康情報提供表をかかりつけ医に提出し個別の健康管理を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院、協力医と連携し早期受診、早期発見に努めている。入退院の際は病院訪問にて状態を把握し情報の交換を常に行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、御家族との連携を取り本人、御家族の希望に添って看護、介護に当たっている。職員研修を行い全体で取り組み主治医への連絡、報告し指示を仰ぎながら支援している。	看取り介護の体制を整備し、職員は看取りの経験もあり、職員全体で取り組める様に研修を行っている。主治医、看護師、家族と連携し、利用者の状況把握と、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修は毎月行っている。その中で定期的に応急手当、緊急時対応に関する研修も行い実践できるように取り組んでいる。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を定期的に行っている。火災時に備え職員の役割分担を行い役割を遂行するように心がけている。避難時の食料、飲料水、毛布は備蓄している。	年2回、職員対象の火災訓練を実施し、非常災害に備えた備品の準備も出来ている。一方、夜間を想定した訓練と、地域住民の参加協力が築かれていない。	併設施設との連携で夜間を想定した避難訓練の実施と、運営推進会議の支援による、地域住民参加の避難訓練が期待される。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を尊重し寄り添う介護を基本としている。一人ひとりに合った対応を心がけている。	職員は利用者の尊厳に留意し、人前であからさまに介護したりせず、さりげない言葉かけや対応に配慮している。個人情報保護法を理解し、情報の漏洩防止の徹底を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者とのゆっくりとした対話の中で本人の希望や気持ちを見つけ、自己決定出来る様に対応する。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースで柔軟に対応し主体性を持てるよう配慮する。安全面を重視して決まり事は最小限にしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の乱れ汚れなどには日ごろから気をつけている。入居者の体感にあわせ衣類の着脱を行い健康管理に努めている。月一回の訪問散髪を利用する方、又家族とパーマをかけに行かれる方も居られる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けなど共に行い食べ易いように切り方、形、見た目など共に工夫しながら調理をしている。調理を担当した職員も一緒に同じテーブルで食事をしている。	食事の準備や後片付け、茶碗拭きを手際よく行っている利用者が見られる。職員が作った料理は美味しく、利用者の殆どが完食し、利用者と職員が同じテーブルを囲み、和気合い合いと楽しい食事光景である。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てたバランスの良い献立で調理を行い、食事摂取量、水分量など個人個人の摂取量を職員が記録、集計し健康管理に当たっている。月一回の体重測定にて体重の変化も観察している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は研修を通して口腔ケアの大切さを学び毎食後、歯ブラシにて口腔内のケアをして頂いている。自分で出来ない方は職員が介助しながら行っている。義歯はお預かりし翌朝、装着している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄パターンを把握し、表情等で見極め、排泄の誘導を行い、自立を目指して支援している。	利用者の一人ひとりの排泄パターンを把握し、表情等で見極めながら排泄誘導を行っている。歩行の自立に伴いオムツからトイレ排泄へと移行した成功事例が見られる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操・リハビリ体操にて、体を動かし、水分補給をしっかり出来る様に一人ひとりの水分摂取量の記録、排尿・排便がスムーズに行えるように心がけている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は週3回だが入居者の希望、健康状態など考慮し、いつでも入浴できる状態にしている。安全面・羞恥心には配慮しながら、介助、見守りをしている。	設定した入浴日に拘らず、利用者の希望、健康状態など考慮し、いつでも入浴できる状態にしている。また安全面・羞恥心等に対しても配慮ができている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの1日の流れや行動を把握し、日中の休息が必要な入居者には自室にて休息。夜間、安眠出来るよう、個々に対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を職員が把握し、服薬時には必ず、声に出して、日付け・名前を確認後、手渡し又は、職員が投薬、飲み込むまで確認し、服薬確認表に記帳している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳・食後の片付け、テーブル拭き、洗濯物干し・たたみ等、自発的に参加され職員見守りの中で行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族同行で気軽に外出外泊している。本人の希望により職員と共に散歩を楽しんだり、花見・地域の祭りなどに参加、交流を持っている。	家族が協力的で、同伴による外出・外泊支援ができている。また、本人の希望により職員と共に散歩を楽しんだり、花見や地域の祭りへの参加など、地域との交流を積極的に図っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、御家族　及び　グループホームで行っている。外食の時などは、御家族・職員が同行にて支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者・御家族の希望に応じ、電話で話しが出来る様に支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室にソファーを置き、自由にくつろげる空間を作り、玄関前にはベンチで外の風や光を感じる様に工夫している。	和室にはソファやテレビがあり、自由に寛げる空間となっている。玄関前には木製のベンチがあり、めだかが入った水連鉢を眺めたり、自然の風や光を感じながら居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時は会話がはずむ様、小グループで行い、和室・廊下にベンチを置き、自由に会話を楽しんでいる。自室にも自由に出入りしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具、生活用品を活用。少しでも落ち着ける様に家族と相談しながら、部屋作りをしている。	居室は本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具、愛着の小物、家族の写真等が配置され、居心地よく過ごせるような工夫が見られる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札・顔写真を貼り、自室がわかる様にしている。安全に移動が出来るよう、バリアフリー・手すりを設置。食事の準備・後片付け・洗濯物干し、たたみ等、介護士が見守りながら、一人ひとりに出来る事を行っている。		